

教科の概要（家庭科）

I. 目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

II. 観点別評価の規準と基準

	規 準		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	十分満足できる		
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を 正確に理解 し、それらに係る 適切な技能 を身に付けている。 【概ね達成率 80%以上】	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を 評価・改善 し、考察したことを根拠に基づいて論理的かつ 適切 に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。 【概ね達成率 80%以上】	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、 課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善 したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 【概ね達成率 80%以上】
B	おおむね満足できる		
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を 正確に理解 し、それらに係る技能を身に付けている。 【概ね達成率 35%以上】	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を 評価・改善 し、考察したことを根拠に基づいて論理的表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。 【概ね達成率 35%以上】	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、 課題の解決に主体的に取り組む 、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 【概ね達成率 35%以上】
C	努力を要する f		
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践について考察したことを根拠に基づいて表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

(別表4)

III. 授業の概要

教科	家庭科	科目	家庭基礎	単位数	2	年次	2
使用教科書	「高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる」(第一学習社)						
副教材等	「家庭基礎学習ノート」(第一学習社)、「生活ハンドブック」(第一学習社)						

1. 学習の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

2. 3観点の評価規準

規 準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を正確に理解し、それらに係る適切な技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的かつ適切に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
上記の規準に対して、「十分満足できる」場合はA、「おおむね満足できる」場合はB、「努力を要する」場合はCとして評価する		
評 価 方 法		
定期テスト、単元テスト、実験・実習のレポート等	定期テスト、単元テスト、実験・実習のレポート、プレゼンテーション等	授業の臨む姿勢や自己振り返り、プレゼンテーションや主体的な取り組み

3. 学習内容

1学期	1章 これからの生き方と家族 2章 次世代をはぐくむ 3章 充実した生涯へ 4章 とともに生きる
2学期	5章 食生活をつくる 6章 衣生活をつくる(実習) 7章 住生活をつくる (被服実習・調理実習含む)
3学期	5章 食生活をつくる(調理実習) 8章 経済生活をつくる

4. 学習方法

○講義型授業、問題解決型授業(グループワークなど)、実践型授業(被服実習・調理実習など)、プロジェクト型授業(家庭や地域の課題発見・解決にむけたホームプロジェクト活動)を実施し、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を身につけることを目指す。
○教科書、プリント、タブレット型端末を活用して授業を進めます。
○期末考査、制作物、提出物、授業態度を総合的に判断して評価を行います。

(別表 4)